



「こども食堂」は、「子どもの貧困対策」と「地域の交流拠点」を活動の柱とした民間発の自主的かつ自発的な取り組みです。今回は平成28年から開催されているけいわっこカレー食堂取材しました。



けいわっこカレー食堂の 皆さんの声

カレーを食べてから、昔遊びのコーナーで遊びます。そのコーナーには地域のおじさんやおばさんがいて、うまくできないときは教えてくれます。隣の家のおばさんもいつも来てくれて、コマやヨーヨーを覚えてもらいました。家の近くで会ってもあいさつするようになりました。(小学生)



子どもたちがボランティアスタッフとして手伝っていて、家では見せない姿を見せてくれるのがいいなと感じています。(地域住民)



ボランティアスタッフを始めて、10回以上お手伝いをしています。初めは友だちが手伝っているのを見て、私もやりたいと思いました。3年生のときに、学校にカレー食堂のスタッフさんが来てくれたことがきっかけで、私もボランティアスタッフを始めました。(小学生)

うちの子どもたちからこの話を聞いて、一度来てみたいと思っていました。食堂が改装されて車いすでも入りやすくなったので、前回から来ています。今回はヘルパーさんも誘って一緒に来ました。スタッフや子どもたちが協力し合ったり、自分の役割を持って子どもたちが教え合ったりしているのがほほましいと思います。(地域住民)



何よりもまず「楽しい」。それが第一。大人から子どもまで、本当にいろいろな人が来てたくさん話ができることも嬉しいです。もっとたくさんの人に来てほしいです。(高校生)



最初は知り合いに連れてきてもらいましたが、子どもたちが本当に楽しそうにしている姿を見て、毎回スタッフとして参加するようになりました。ここでの思い出や経験が子どもたちの将来につながってくれたら嬉しいです。(地域住民)



★ 担当者の思い ★

「よく来たな、元気やったか?」。けいわっこカレー食堂では、そんな声があちらこちらから聞こえてきます。この場所をきっかけに地域の中で、人と人との温かいつながりが生まれているのだと感じました。津市では他にもさまざまな運営団体が主体になり、市内各地でこども食堂が開催されています。